

令和8年度 佐賀学園高等学校 学校評価計画

1 学校教育目標

建学の精神「産業界の第一線に貢献する人材の育成」と本校「創造」「運動」「貢献」を導き、いかなる時局においても生徒の力を身に付けさせる教育を実践する。

2 学校経営ビジョン

- ① 県民・地域社会の信頼を得る学校づくりを目指す。
② 基本的な生活習慣の定着及び周りに人の思いやりをもった心豊かな生徒の育成を目指す。
③ 生徒一人一人の学力・人間力を伸ばし、すべての生徒の進路指導を目指す。
④ 部活動の奨励と充実を図り、社会性及び人間性の涵養を図る。

3 本年度の重点目標

令和10年度の創立70周年に向けて、建学の精神「産業界の第一線に貢献する人材の育成」に基づく教育活動を再構築し、これまで築かれた伝統を継承するとともに、これからの未来に向けた更なる学校の活性化に向け、教職員・生徒一体となって「心一つにみんなで作る佐賀学園」をキャッチフレーズとして、選ばれる学校、信頼される学校づくりを目指す。
そのために「創」の時代の教育活動として、生徒一人ひとりの人間力を向上するための重点として、「7つの習慣」を導入する。「7つの習慣」を導入して、主体的・協働性を兼ね備えた考え方や行動を習慣化させ、生徒の行動変容につなげる。そして生徒一人ひとりが授業や学校行事など様々な教育活動によって次の3つの心を目指す。※「7つの習慣」は「7つの習慣」は「7つの習慣」は「7つの習慣」の2種類である。
○ 向上心：夢に向かって勉強や部活動に打ち込み、自己を奮って高めたい心
○ 自尊心：社会でマナー・服装等を整え、正しい生活を送りたい心
○ 思いやり：人の心の痛みや苦しみを思いやれる心、利他的精神

4 前年度の成果と課題

生徒募集対策や部活動の地道な活動が実り、入学希望者が増加していった。これに油断せず、創立70周年に向けて、建学の精神を再確認しながら、更なる学校の活性化に向け、職員・生徒一体となった学校づくりが必要である。
・佐賀学園を商業科・情報処理科1年生の授業と関連性を持たせながら実施した。課題はあったが、実践的な学びの場として大きな可能性が感じられた。
・本校のPR材料の一つである部活動は、運動部・文化部を問わず、各種大会での活躍が見られ、ポラシティ活動も積極的に行われる等、多面的な活躍が見られた。特にゲームクリエイター部は本校独自の部活動として新しい成長を見せており、クリエイティブ活動や地域の連携で自ら実践し活躍を見た。
・キャリア教育の面で、学年で取り組んだ「キャリア・デザインタイム」、進路指導部のガイダンスも充実してきたが、重複した内容もある等、進路指導部と学年の協働性に不十分点が見られた。
・人間力の向上については、道徳教育が不十分であり、抜本的な見直しが必要である。

5 総括表

Table with 4 columns: 領域 (Area), 評価項目 (Evaluation Item), 評価の観点 (評価の観点 (具体的な評価項目)) (Evaluation Perspective (Specific Evaluation Items)), 具体的目標 (Specific Objectives), 具体的方策 (Specific Strategies). Rows include 学校経営方針, 生徒募集 (広域活動), 学校運営, 職員の指導力向上, 学力向上, 進路指導, 生徒指導, 環境美化, 課外活動, 長期欠席・不登校傾向の生徒に対する対応, マナー指導, 生徒会活動, 特別課題, キャリア教育.